

和歌山信愛大学教育学部紀要の創刊に寄せて

和歌山信愛大学 学長 森田登志子

和歌山信愛大学教育学部は、和歌山市や和歌山県、日高川町、湯浅町などの自治体をはじめ、学校関係者、地元企業、そして本町地区やぶらくり丁商店街など、非常に多くの方々のご理解とご協力により開学いたしました。

和歌山市の「まちなか 3 大学構想」による誘致を受けて文部科学省に設置申請書を提出した 2017 年は、ベルナルド・プティジャン司教の要請を受け、フランス「ショファイユの幼きイエズス修道会」より 4 人のシスターが日本に派遣されて 140 周年となる記念すべき年でした。明治時代に入ってまだ 10 年目という新しい国づくりが始まったばかりの当時の日本において、シスターは、まず、捨てられた子どもたちのための施設を作り、女性の地位向上のための教育活動を始めました。修道会は決して経済的に恵まれていたわけではありませんでした。多くの方々の温かい善意によって事業が進められていき、大阪、和歌山、熊本、福岡、長崎などの拠点を中心に、順調な発展を遂げてきました。

現在、世界ではグローバル化の進展や人工知能技術による技術革新などによって、社会構造が大きく変化しつつあります。平成 30 年 11 月に中央教育審議会より示された答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」などにも述べられているように、人生 100 年時代を迎え、10 年後には日本の生産年齢人口は OECD 加盟国中最下位になり、20 年後には 18 歳人口は現在の 120 万人から 88 万人に減少すると予測されています。日本の教育に目を向けると、将来の予測困難な時代を生き抜くために必要な能力が大きく変わることが予想されることから、学習指導要領の改訂や高大接続改革、大学入学者選抜改革などが進み、大きな変革期を迎えています。このように不透明で変化の激しい時代を力強く生き抜く人材を育てる上で必要なのは、140 年以上にわたって信愛が取り組み続けている「心」に最重点をおいた教育であると確信しています。これからも、多くの方々との連携・協力のもと、地域社会の次世代を担う人材育成に邁進して参りたいと考えております。

昨年末、本学に隣接して和歌山市の子育て支援複合施設が開設されました。また今秋には、旧本町幼稚園をリノベーションし、先進的な機能を備えた新 3 号館が完成するなど、地域における教育・研究・地域貢献の環境が充実して参ります。その中で、新たに創刊される本紀要が、本学における研究・教育の成果を地域の皆さまと共有する場となることを願っております。

2020 年 3 月 12 日